

サイ・テック 知と技の発信

[202]

埼玉大学・理工学研究の現場

■道路の機能

道路は主に、人や車が移動するための役割を持ちますが、そこから、人々がより良い生活の機能はさらに、安全で円滑な交通を保障するための通行機能、沿道の商店や建物等への出入りするためのアクセス機能、そ

こつしたさまざまな機能を活かす。また、人々がより良い生活のために、安全で円滑な交通を保障するための通行機能が必要で、そのための検討には、現状把握や対策の効果測定に用いる、データの収集が欠かせませんが、テクノロジーの進展に伴い、日々新たな



こじまあや 1988年生まれ。2010年9月埼玉大学大学院修士(学術)。国土交通省国土技術政策技術研究所研究官、埼玉大学非常勤研究員を経て、12年4月から現職。専門は地区交通計画。

データを利用した道づくり

小嶋文 大学院理工学研究科 助教

な種類のデータが生まれてい

はないか、というのが私たちの

■事故防止の対策期待

例えば、カーナビや、スマートフォン

のGPS(全地球測位システム)機能から得られる位置情報も、比較的新しいデータの

一つです。

個々の自動車について時々刻々記録された位置情報からは、ある地点での車の速度や、旅行速度が分かります。こうしたデータから「急減速」が発生している地点を見つけ、利用した研究を紹介しましょう。

■新たな手法を検討

これまでの研究で、昔からある生活道路が、新たにできた幹線道路に

また、自動車の位置情報データは、現状、多大な努力によって得られているデータを代替し、それ以上の情報をもたらす。例えば、歩行者の悪い空間を創出するために、ある道路を車

点では、交通事故が多く発生している、という傾向が分かっています。

例えば、歩行者の悪い空間を創出するために、ある道路を車

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・7995・9161 FAX 048・653・9040
ikeizai@saitama-np.co.jp